

# 松本空港概要書

■平成23年度



長野県 企画部 交通政策課

## 目 次

1	沿革	1
2	施設の概要	5
3	空港利用状況	8
4	冬期間の降雪量及び気温の状況等	22
5	信州の翼FDA応援プログラム（平成23年度）	23
6	信州まつもと空港の利用促進に関するアンケート結果	24
7	松本空港位置図	27

## 1 沿革

長野県は、我が国の中央部に位置し、日本の屋根と呼ばれる山々が連なっている。これらの山々を水源として千曲川、犀川、天竜川、木曾川が流れ、千曲川の流域には佐久平と善光寺平が、犀川の流域には松本平が、また、天竜川の源となる諏訪湖を中心に諏訪盆地がそれぞれひらけている。

この長野県の中央部、松本平の中心に位置する松本空港は、昭和40年7月に信州の空の玄関として供用を開始し、翌昭和41年8月には「アルプスの空の旅」として観光臨時便が大阪―松本間に就航、その後、季節便を経て、昭和57年には通年運航定期便、さらに昭和60年には通年複便が就航した。

この間、航空機運航の一層の安全を確保するため、航空保安無線施設穂高NDB（平成17年12月廃止）、松本VOR/DMEや滑走路侵入角指示灯などの施設を充実した。

平成4年1月からジェット化対応可能な空港とするための滑走路拡張工事（1,500m→2,000m）が始められ、平成6年7月に供用を開始した。

供用開始時には、(株)日本エアシステム（現：(株)日本航空インターナショナル）のDC-9-87（MD-87）型機が大阪線、福岡線及び札幌線に就航し、松本空港はジェット化空港としての第一歩を踏み出した。

翌年7月には、同機が広島線に就航し、その後も仙台線及び関西空港線に逐次就航（平成9年廃止）して路線の拡充が図られ、平成10年6月には、日本エアコミューター(株)のSAAB340B型機が新規路線として松山線及び高松線に就航するとともに、平成13年4月には同社のYS-11型機が大阪線に就航（平成13年10月まで）した。

また、平成8年11月には、海外に向けた初の国際チャーター便（松本⇄韓国）の運航が行われ、以降、中国本土、台湾等などとの双方向のチャーター便の運航も行われている。

平成13年5月には、ジェット化開港後の利用者が150万人に達したものの、年間利用者数は平成8年度の約26万人をピークに毎年減少を続け、採算性の低い地方航空路線の減便・廃止という航空業界の流れから当空港関係路線も見直しを受け、平成11年には松山線が、平成13年には高松線が廃止された。

その後、運航会社の経営統合にともなう国内路線の再編により、平成15年4月から大阪線に、平成16年4月から福岡線に、DC-9-87（MD-87）型機に替わり、日本エアコミューター(株)のDASH-8-400型機が就航した。

平成16年7月には、ジェット化開港10周年を迎え、また、ジェット化開港後の利用者が200万人に達し、愛称「信州まつもと空港」の使用も開始した。

平成19年4月には、開港以来の利用者が300万人に達したが、同年9月をもって、ジェット化開港以来就航してきたDC-9-87（MD-87）型機が退役となり、同年10月から札幌線にもDASH-8-400型機が就航、福岡線との隔日運航となった。

平成21年10月に日本航空は、経営悪化を理由に信州まつもと空港からの撤退を表明した。そこで、県をはじめ松本市、塩尻市等は、日本航空や国土交通省に路線存続の要請を行う一方、平成21年10月末から、静岡県に本社を置き、信州まつもと空港に就航可能なジェット機を所有する(株)フジドリームエアラインズ（FDA）に対し、「まつもと空港」への就航を働きかけた。

その結果、FDAは信州まつもと空港での現地調査を行い、平成21年11月末、日本航空の撤退後、空白期間を置くことなく、平成22年6月から札幌線、福岡線の運航を行うことを発表した。

日本航空は、平成22年5月31日をもって信州まつもと空港から撤退し、これにより、44年間続いた大阪線は運休となった。

そして、翌日の平成22年6月1日からは、FDAが日本航空とのコードシェアにより、最新鋭のジェット機で札幌線、福岡線の毎日運航を開始し、同年10月には静岡線（平成23年3月運休）も開設された。

平成23年9月15日には、FDA就航後の利用者が10万人に達した。

## ◆主な経過

- 昭和37. 12. 28 松本空港の設置について許可  
 40. 7. 16 長野県松本空港管理事務所設置  
 40. 7. 16 松本空港供用開始  
 40. 8. 1 東京航空局松本空港出張所、松本測候所松本空港分室運用開始  
 41. 8. 5～8. 17 観光臨時便大阪－松本間「アルプス空の旅」として東亜航空(株)機運航(8/5～8/17)  
 (就航機種：コンベア240型機)  
 41. 10. 1 東亜航空(株)により大阪－松本間不定期便運航(S41. 10. 1～11. 15、S42. 4. 1～5. 31、  
 S42. 7. 15～8. 31)(就航機種：コンベア240型機)  
 43. 7. 15 東亜航空(株)により大阪－松本間季節便運航(7. 15～8. 31)(8. 1から就航機種：YS-11  
 型機)  
 44. 7. 1 東亜航空(株)により大阪－松本間季節便運航(7. 1～10. 31、S45は7. 1～11. 15)  
 44. 7. 20 穂高NDB設置(旧：南安曇郡豊科町)  
 46. 5. 15 東亜航空(株)が東亜国内航空に商号変更  
 48. 5. 21 空港運用時間改正(日出～日没→9:00～17:00)  
 48. 6. 1 航空灯火施設(進入角指示灯・滑走路末端識別灯)設置  
 48. 11. 26 滑走路嵩上げ  
 53. 9. 20 ターミナルビル(待合室)増築  
 55. 3. 1 東亜国内航空(株)大阪線運航期間を延長(S55. 3. 1～11. 30)  
 56. 3. 1 東亜国内航空(株)大阪線運航期間を延長(S56. 3. 1～S57. 1. 15)  
 57. 3. 1 誘導路拡幅(12. 5m→18m)  
 57. 3. 1 東亜国内航空(株)大阪線通年運航開始  
 58. 12. 1 松本VOR/DME設置  
 59. 3. 26 航空灯火施設予備発電施設設置  
 59. 6. 30 ターミナルビル(待合室)増築  
 59. 7. 1～11. 30 東亜国内航空大阪線2便運航  
 60. 4. 27 東亜国内航空大阪線通年2便運航  
 61. 3. 1 気象観測施設(風車型風向風速計)設置  
 61. 11. 28 閣議決定により国の第5次空港整備5か年計画に組み入れられる  
 63. 4. 1 東亜国内航空が(株)日本エアシステムに商号変更  
 平成元. 6. 1 ABIS(航空路情報提供業務)設置  
 2. 1. 26 空港拡張整備事業に伴う基準杭打式  
 4. 1. 10 松本空港建設工事起工式  
 5. 5. 10 空港施設の運用制限が実施され定期便の運航休止  
 6. 4. 13 飛行場及び航空灯火施設完成  
 6. 5. 29 (株)日本エアシステム慣熟飛行(DC-9-87(MD-87)型機)  
 6. 7. 4 (株)日本エアシステム慣熟飛行(DC-9-87(MD-87)型機)  
 6. 7. 26 ジェット化供用開始(就航機種：DC-9-87型機)、(株)日本エアシステム福岡線運航開  
 始、大阪線再開  
 6. 7. 27 (株)日本エアシステム札幌線運航開始  
 7. 4. 25～9. 11. 30、10. 2. 1～10. 3. 1 (株)日本エアシステム広島線運航  
 8. 7. 19 福岡・札幌線毎日運航通年化  
 8. 7. 20～9. 10. 31 (株)日本エアシステム仙台線運航  
 8. 9. 1～9. 5. 30、9. 12. 1～10. 3. 31 (株)日本エアシステム関西空港線運航  
 8. 9. 6 ジェット化開港後の利用客50万人達成  
 8. 11. 15 (株)日本エアシステム国際チャーター便 松本－釜山間運航  
 9. 12. 6 (株)日本エアシステム国際チャーター便 松本－ソウル間運航  
 10. 6. 1～13. 6. 30 日本エアコミューター(株)松山線運航(就航機種：SAAB340B型機)  
 10. 6. 2～11. 5. 31 日本エアコミューター(株)高松線運航(就航機種：SAAB340B型機)

10. 9. 30 ジェット化開港後の利用客100万人達成
10. 10. 30 (株)日本エアシステム国際チャーター便 松本ーソウル間運航
10. 12. 3 北エプロンスポット増設工事完成
11. 10. 30 (株)日本エアシステム国際チャーター便 松本ーソウル間運航
12. 10. 27 (株)日本エアシステム国際チャーター便 松本ーソウル間運航
13. 4. 1～13. 10. 31  
日本エアコミューター(株)大阪線運航(就航機種:YS-11型機)  
(この期間は、(株)日本エアシステムと併せて1日2往復運航)
13. 5. 31 ジェット化開港後の利用客150万人達成
13. 10. 26 第一回松本空港活性化検討委員会開催(平成14年11月22日までに委員会7回、ワーキング5回開催)
14. 6. 1 (株)日本エアシステム国際チャーター便 松本ー釜山間運航
14. 6. 3 札幌線利用客50万人達成
14. 10. 2 (株)日本航空システム設立
14. 11. 29 「松本空港活性化に向けての提言」が知事に提出される
15. 4. 1 日本エアコミューター(株)大阪線運航開始(就航機種:DASH-8-400型機)
15. 7. 2 福岡線利用客50万人達成
16. 3. 3 空港の愛称が「信州まつもと空港」に決定
16. 4. 1 (株)日本エアシステムが(株)日本航空ジャパンに商号変更
16. 4. 1 日本エアコミューター(株)福岡線運航開始(就航機種:DASH-8-400型機)
16. 7. 1 「信州まつもと空港」愛称使用開始
16. 7. 13 ジェット化開港後の利用客200万人達成
17. 3. 26 ホンコンドラゴンエアラインズリミテッド(香港ドラゴン航空)国際チャーター便  
香港ー松本間運航(運航機種:A320-200型機)
17. 6. 11 ホンコンドラゴンエアラインズリミテッド(香港ドラゴン航空)国際チャーター便
17. 11. 2、6 チャイナエアライン(中華航空)国際チャーター便(双方向) 台湾ー松本間運航  
(運航機種:B737-800型機)
18. 5. 1、5 中国南方航空公司 国際チャーター便(双方向) 瀋陽ー松本間運航(運航機種:  
A319型機)
18. 10. 1、5 中国東方航空公司 国際チャーター便(双方向) 青島ー松本間運航(運航機種:  
A319型機)
18. 10. 10 中国国際航空公司 国際チャーター便 松本ー重慶間運航(運航機種:B737-700型  
機)
18. 10. 12、16 チャイナエアライン(中華航空)国際チャーター便
18. 10. 14、18 中国国際航空公司 国際チャーター便(双方向) 武漢ー松本ー重慶間運航(運航機  
種:B737-700型機)
18. 10. 22 中国国際航空公司 国際チャーター便
18. 12. 7 日本航空から、MD-87型機を19年度中に一斉退役させ、松本には就航可能な機材がない  
ので、札幌便を運休させたいとの打診有り
19. 1. 12 知事が国土交通省航空局長に対して支援要請
19. 1. 23 県議会が日本航空に対して、存続要請
19. 1. 25 日本航空と知事が会談 日本航空から長野県に平成19年10月からの松本・札幌線の運  
休を正式に申し入れ
19. 2. 2 松本青年会議所が日本航空に、存続要請署名82,877名分を提出
19. 2. 7 信州まつもと空港利用促進協議会が、日本航空に存続要請署名72,688名分を提出
19. 2. 15 知事が、日本航空本社を訪れ、運休再考を要請
19. 2. 19 長野県、日本航空間で札幌線存続に合意
19. 5. 1、3、5、7  
中国南方航空公司 国際チャーター便(双方向) 大連ー松本ー天津、大連間運航  
(運航機種:A319型機) (5.1は、天候不良により欠航)
19. 5. 2、6 中国東方航空公司 国際チャーター便(双方向) 上海ー松本間運航(運航機種:  
A319型機) (5.6は、天候不良により欠航)
19. 6. 1、4 チャイナエアライン(中華航空) 国際チャーター便(双方向)
19. 10. 1 日本エアコミューター(株)札幌線運航開始(就航機種:DASH-8-400型機)

19. 10. 8、12、16、20、24  
中国国際航空公司 国際チャーター便 重慶－松本間、西安－天津間運航（運航機種：B737-700型機）
20. 2. 14、17 コンチネンタル・ミクロネシア航空 国際チャーター便 グアム－松本間運航（運航機種：B737-800型機）
20. 5. 1、6 中国国際航空公司 国際チャーター便（双方向）  
20. 5. 3、7 中国東方航空公司 国際チャーター便（双方向）  
20. 5. 24、28 中国南方航空公司 国際チャーター便（双方向）
20. 10. 11、15、19、23、27、31、11. 4、8、12、16  
チャイナエアライン（中華航空） 国際チャーター便（双方向）
21. 2. 14、17 コンチネンタル・ミクロネシア航空 国際チャーター便  
21. 5. 23、27 中国南方航空公司 国際チャーター便（双方向）  
21. 9. 19、22 ウラジオストック航空 国際チャーター便  
21. 10. 14 日本航空から信州まつもと空港発着3路線のすべてから撤退したいとの正式説明  
21. 10. 15 知事が日本航空へ存続を申し入れ  
21. 10. 20 信州まつもと空港利用促進協議会による日本航空への存続要請  
21. 10. 末 (株)フジドリームエアラインズに対し信州まつもと空港への就航について働きかけ  
21. 11. 1、5、9、13  
中国国際航空公司 国際チャーター便（11. 17は、天候不良によりダイバート）  
21. 11. 13 国土交通大臣へ信州まつもと空港発着路線の存続等の要請  
21. 11. 14 知事と(株)フジドリームエアラインズ社長との懇談  
21. 11. 18 (株)フジドリームエアラインズと、札幌・福岡線のジェット機による毎日運航実現に向けた正式協議を開始  
21. 11. 19 (株)フジドリームエアラインズによる信州まつもと空港現地調査の実施  
21. 11. 30 (株)フジドリームエアラインズ、信州まつもと空港への就航を表明  
21. 12. 8～22. 8. 31  
灯火電力監視制御装置更新工事  
22. 1. 13 (株)フジドリームエアラインズが6月1日からの運航を発表  
22. 1. 19、2. 12  
(株)フジドリームエアラインズ、就航機材を使用したデモフライト実施  
22. 2. 14、17 コンチネンタル・ミクロネシア航空 国際チャーター便  
22. 5. 1、5 中国東方航空公司 国際チャーター便（双方向）  
22. 5. 6、8、10、12、14、27、29  
(株)フジドリームエアラインズ 国内チャーター（5. 8、10、12はデモフライトも実施）  
22. 5. 31 日本エアコミューター(株)、大阪線、札幌線のラストフライト（福岡線は前日が最終）  
22. 6. 1 空港運用時間変更（9:00～17:00→8:30～17:00）  
(株)フジドリームエアラインズ、札幌線、福岡線の運航開始（就航機種：エンブラエル170/175）（日本航空とのコードシェア開始）  
22. 10. 31～23. 3. 26  
(株)フジドリームエアラインズ、静岡線運航  
22. 11. 1～ 滑走路等灯火改修工事  
22. 11. 30～ 滑走路等舗装改修工事  
23. 2. 16、19 コンチネンタル航空 国際チャーター便  
23. 9. 15 (株)フジドリームエアラインズ就航後の利用者が10万人を達成

## 2 施設の概要

- (1) 名称 松本空港
- (2) 管理者 長野県知事
- (3) 位置 標点 長野県松本市大字今井  
 北緯 36° 10' 00"  
 東経 137° 55' 22"  
 標高 657.5m  
 敷地 松本市大字笹賀・今井、塩尻市大字洗馬
- (4) 種類及び着陸帯の等級  
 地方管理空港 非計器用C級
- (5) 規模 用地総面積 573,235㎡  
 着陸帯 2,120m×150m  
 滑走路 2,000m×45m (アスファルトコンクリート舗装)  
 過走帯 60m×45m (アスファルトコンクリート舗装) 2か所  
 誘導路 北:140m×9m (アスファルトコンクリート舗装)  
 南:135m×23m (アスファルトコンクリート舗装)  
 エプロン 北:R 117m×62m L 93m×62m (アスファルトコンクリート舗装)  
 (小型機用11パーズ)  
 南:90m×135m (セメントコンクリート舗装)  
 (小型ジェット機用3パーズ)
- (6) 保安施設 無線施設 松本VOR/DME (超短波全方向式無線標識施設/距離測定装置)  
 航空灯火・照明施設

NO	名称	設置状況	電球数	NO	名称	設置状況	電球数
1	飛行場灯台 (障害灯)	灯柱 1基	1灯	11	滑走路距離灯	地面 12基	496灯
			1灯	12	過走帯灯	地面 10基	10灯
2	簡易式進入灯	灯柱 19基	51灯	13	誘導路灯 (出入口灯)	地面 51基	51灯
		地面 1基				地面 8基	8灯
3	進入角指示灯	架台 8基	24灯	14	誘導路中心線灯	埋設 25基	25灯
4	旋回灯	地面 9基	9灯	15	風向灯 (障害灯)	灯柱 2基	8灯
5	進入灯台	灯柱 3基	15灯			灯柱 2基	2灯
6	直線進入用進入路指示灯	灯柱 8基	8灯	16	エプロン灯	灯柱 6基	6灯
7	滑走路灯	地面 64基	64灯			灯柱 6基	21灯
		埋設 2基	4灯	17	駐車場灯	ポール11基	11灯
8	滑走路末端灯	地面 4基	4灯			ポール 5基	5灯
		埋設 30基	60灯	灯柱 2基	12灯		
9	滑走路末端識別灯	地面 2基	2灯	18	航空障害灯	鉄塔 11基	27灯
10	滑走路中心線灯	埋設 66基	66灯	19	地標航空灯台	灯柱 4基	4灯

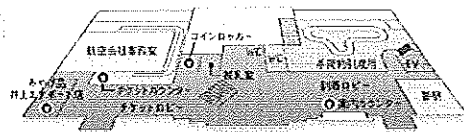
- (7) 水利施設 貯水槽 9基 鉄筋コンクリート構造 各40.0t  
 消火栓 2基 2,500ℓ/分

- (8) その他の施設
- 電源局舎 構造 鉄筋コンクリート造平屋建  
 建物延床面積 591.69㎡
- 消防除雪車庫 構造 鉄骨造平屋建  
 建物延床面積 442.50㎡
- 点検用車両車庫 構造 鉄骨造平屋建  
 建物延床面積 121.50㎡
- 化学消防車車庫 構造 鉄骨造平屋建  
 建物延床面積 81.00㎡

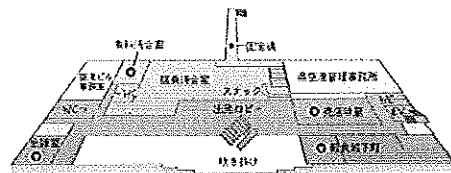
旅客ターミナルビル

構 造 鉄筋コンクリート造2階建一部3階  
 建物延床面積 3,483㎡

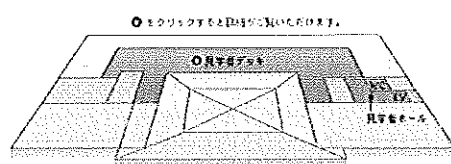
1階 チケットカウンター、案内  
 カウンター、到着ロビー、  
 手荷物引渡所、松本電鉄(株)  
 航空サービスセンター、県  
 警松本空港警備派出所、警  
 備室、物品販売店、コイン  
 ロッカー、エスカレー  
 ター、エレベーター、機械  
 室、手洗室、倉庫、その他



2階 出発ロビー、搭乗待合室、  
 物品販売店、飲食店、県松  
 本空港管理事務所、VIP  
 ルーム、松本空港ターミナ  
 ルビル(株)、有料待合室、無  
 料休憩室、会議室、エスカ  
 レーター、エレベーター、  
 機械室、手洗室、倉庫、そ  
 の他



3階 送迎デッキ、屋上送迎室、  
 エレベーター、機械室、手  
 洗室、その他



貨物ビル 構 造 鉄筋コンクリート造平屋建  
 建物延床面積 233㎡

駐車場 約330台収容

- (9) 車 両
- ア 化学消防車 (ア) 8,500級 1台  
 (イ) 6,000級 1台
  - イ 除雪作業車 (ア) スノースーパー 2台  
 (イ) グレーダー 1台  
 (ウ) 除雪トラック 6台  
 (エ) 融雪剤散布車 1台  
 (オ) ロータリー車 1台  
 (カ) SFT (連続式摩擦係数測定計) 車 1台
  - ウ 救急医療資器材運搬車 1台
  - エ 灯火点検作業車 1台
  - オ 地上支援機材 (ア) トーイングトラクター 1台  
 (イ) トーイングタグ 2台  
 (ウ) ベルトローダー 1台  
 (エ) フォークリフト 1台  
 (オ) 防除雪氷車 1台  
 (カ) バルクカート (屋根付) 2台  
 (キ) バルクカート (屋根なし) 4台
  - カ その他 3台



(10) 平成23年度組織と業務

所名	事務内容	運用時間	組織
長野県 松本空港管理事務所	空港管理に関すること	8時30分～17時	所長ほか 6名
国土交通省東京航空局 松本空港出張所	航空機の運航に関すること	8時30分～17時	所長ほか 5名
東京航空地方気象台 松本空港分室	航空気象に関すること	8時～17時	分室長ほか 3名
長野県 交通政策課	空港の活性化に関すること	—	係長ほか 3名

### 3 空港利用状況

#### (1)-1 使用形態別着陸回数及び停留回数

(単位：回)

年度	区分	民間機			公用機	合計	停留回数
		定期	その他	計			
昭和57		343	4,841	5,184	229	5,413	1,897
58		352	4,240	4,592	258	4,850	1,997
59		507	3,422	3,929	214	4,143	1,890
60		667	3,003	3,670	211	3,881	1,832
61		702	3,116	3,818	193	4,011	1,945
62		671	2,911	3,582	226	3,808	1,852
63		665	2,658	3,323	137	3,460	1,648
平成元		668	2,972	3,640	398	4,038	2,007
2		681	3,046	3,727	362	4,089	1,744
3		657	2,720	3,377	395	3,772	1,963
4		654	4,418	5,072	429	5,501	1,861
5		67	690	757	827	1,584	180
6		692	2,595	3,287	442	3,729	33
7		1,394	2,952	4,346	424	4,770	86
8		1,668	4,577	6,245	447	6,692	68
9		1,654	3,331	4,985	688	5,673	89
10		1,203	3,647	4,850	668	5,518	75
11		1,106	3,580	4,686	646	5,332	47
12		1,372	2,469	3,841	653	4,494	35
13		1,323	2,943	4,266	666	4,932	45
14		1,052	2,765	3,817	758	4,575	26
15		1,040	2,566	3,606	864	4,470	59
16		1,028	2,304	3,332	828	4,160	62
17		1,053	2,425	3,478	753	4,231	60
18		1,059	2,676	3,735	743	4,478	53
19		875	2,368	3,243	761	4,004	145
20		696	2,414	3,110	700	3,810	151
21		697	2,617	3,314	689	4,003	259
22		852	2,482	3,334	743	4,077	126

## (I)-2 FDA就航後の定期路線利用状況

(単位:人,%)

年 月	札幌線				福岡線				静岡線				全 体				
	利用者	利用率	就航率	欠航便数	利用者	利用率	就航率	欠航便数	利用者	利用率	就航率	欠航便数	利用者	利用率	就航率	欠航便数	
平成22年度	22.6	3,547	76.9	98.3	1	1,550	33.6	98.3	1	—				5,097	55.3	98.3	2
	22.7	4,167	84.7	100.0	0	1,839	37.4	100.0	0	—				6,006	61.0	100.0	0
	22.8	4,288	87.4	100.0	0	2,726	55.6	100.0	0	—				7,014	71.5	100.0	0
	22.9	3,594	79.0	95.0	3	2,177	47.9	95.0	3	—				5,771	63.4	95.0	6
	22.10	3,588	76.1	96.8	2	2,665	56.4	96.8	2	91	59.9	100.0	0	6,344	66.1	96.8	4
	22.11	3,362	69.6	100.0	0	2,396	52.5	96.7	2	1,671	34.6	100.0	0	7,429	52.2	98.9	2
	22.12	2,525	52.5	98.4	1	2,065	43.5	96.8	2	1,510	31.4	98.4	1	6,100	42.4	97.8	4
	23.1	2,521	51.9	100.0	0	2,107	42.7	100.0	0	1,979	40.8	100.0	0	6,607	45.1	100.0	0
	23.2	2,556	59.9	96.4	2	2,064	50.0	92.9	4	2,606	61.1	96.4	2	7,226	57.1	95.2	8
	23.3	3,619	76.0	98.4	1	2,693	55.7	96.8	2	2,978	75.3	98.1	1	9,290	68.6	97.7	4
平成23年度	23.4	1,952	42.8	100.0	0	1,870	41.0	100.0	0	—				3,822	41.9	100.0	0
	23.5	2,618	58.2	95.2	3	2,602	57.8	95.2	3	—				5,220	58.0	95.2	6
	23.6	3,287	72.1	100.0	0	2,172	48.4	98.3	1	—				5,459	60.4	99.2	1
	23.7	4,221	89.3	100.0	0	2,954	62.5	100.0	0	—				7,175	75.9	100.0	0
	23.8	4,287	91.8	98.4	1	3,833	82.1	98.4	1	—				8,120	87.0	98.4	2
	23.9	3,543	83.2	93.3	4	3,066	72.0	93.3	4	—				6,609	77.6	93.3	8
	23.10	3,521	74.7	100.0	0	3,847	81.6	100.0	0	—				7,368	78.2	100.0	0
計	57,196	72.2	98.3	18	42,626	54.1	97.6	25	10,835	47.4	98.6	4	110,657	61.2	98.0	47	

(注) 静岡線の運航:平成22年10月31日から平成23年3月26日まで

## (2) 定期路線等利用状況

(上段：利用者数 下段：利用率)

路線 (路線開設期間)	H6年度	H7年度	H8年度	H9年度	H10年度	H11年度	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	小計
札幌線 (新千歳) H6.7.27~	25,634	58,085	66,306	67,874	75,441	67,185	66,649	63,220	62,273	62,470	615,137
	83.2%	83.4%	74.4%	72.8%	56.4%	70.4%	59.9%	66.8%	66.0%	67.2%	67.9%
福岡線 H6.7.26~	27,338	53,865	53,863	56,328	56,419	58,351	60,679	60,149	60,480	51,936	539,408
	86.1%	72.0%	61.5%	60.8%	59.8%	60.6%	64.4%	64.1%	64.4%	59.9%	63.8%
大阪線 (伊丹) H6.7.26~ H22.5.31	75,316	111,093	82,812	75,166	53,510	59,360	52,908	57,562	52,332	25,186	645,245
	61.4%	58.5%	61.0%	51.6%	56.8%	61.7%	56.1%	46.2%	55.8%	49.7%	56.2%
広島線 (廃止) H7.4.25~ H10.3.31	-	26,033	26,186	24,585	-	-	-	-	-	-	76,804
	-	67.2%	53.4%	56.1%	-	-	-	-	-	-	58.4%
仙台線 (廃止) H8.7.20~ H9.10.31	-	-	12,722	12,919	-	-	-	-	-	-	25,641
	-	-	45.4%	53.3%	-	-	-	-	-	-	49.1%
関西空港線 (廃止) H8.9.1~ H10.3.31	-	-	22,598	13,577	-	-	-	-	-	-	36,175
	-	-	41.1%	32.0%	-	-	-	-	-	-	37.1%
松山線 (廃止) H10.6.1~ H13.6.30	-	-	-	-	5,187	8,511	6,987	888	-	-	21,573
	-	-	-	-	56.3%	43.2%	38.4%	31.6%	-	-	43.2%
高松線 (廃止) H10.6.2~ H11.5.31	-	-	-	-	5,052	806	-	-	-	-	5,858
	-	-	-	-	54.8%	43.9%	-	-	-	-	53.0%
国際チャーター便	-	-	171	123	226	232	188	-	230	-	1,170
	-	-	63.8%	91.8%	84.3%	86.6%	70.1%	-	85.8%	-	79.4%
国内チャーター便	-	-	-	-	-	-	-	-	-	359	359
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	89.3%	89.3%
合 計	128,288	249,076	264,658	250,572	195,835	194,445	187,411	181,819	175,315	139,951	1,967,370
	69.3%	66.7%	59.5%	56.7%	57.4%	62.8%	58.9%	57.6%	62.1%	60.7%	60.7%

路線 (路線開設期間)	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	合 計
札幌線 (新千歳) H6.7.27~	58,717	61,357	57,442	45,235	22,002	20,040	36,875	916,805
	63.7%	65.2%	61.0%	72.1%	76.8%	68.6%	71.2%	67.5%
福岡線 H6.7.26~	35,325	36,562	35,653	24,081	14,096	13,694	24,638	723,457
	63.3%	70.5%	68.5%	65.7%	62.7%	61.1%	48.7%	63.6%
大阪線 (伊丹) H6.7.26~ H22.5.31	24,710	26,105	26,416	26,195	24,755	22,420	4,044	799,890
	43.9%	50.3%	50.5%	50.7%	47.7%	43.3%	47.9%	54.3%
静岡線 H22.10.31~ H23.3.26	-	-	-	-	-	-	10,835	10,835
	-	-	-	-	-	-	47.4%	47.4%
広島線、仙台線、関 西空港線、松山線、 高松線 (各廃止)	-	-	-	-	-	-	-	166,051
	-	-	-	-	-	-	-	48.5%
国際チャーター便	228	694	1,732	2,083	2,631	1,422	638	10,598
	72.2%	73.2%	84.4%	71.4%	56.8%	72.4%	80.2%	74.0%
国内チャーター便	-	-	-	-	-	-	3,177	3,536
	-	-	-	-	-	-	86.4%	86.7%
合 計	118,980	124,718	121,243	97,594	63,484	57,576	80,207	2,631,172
	69.3%	66.7%	59.5%	56.7%	57.4%	54.7%	58.1%	60.5%

\* 大阪線：平成13年4月1日～11月30日、1日2便運航 (運航機種：4月1日～10月31日JAC/YS-11、11月1日～11月30日JAS/MD-87)

\* 札幌線：平成10年6月1日～10月31日、1日2便運航

平成12年7月1日～8月31日、1日2便運航

平成19年10月1日～週4便運航

\* 福岡線：平成19年10月2日～週3便運航

\* 松山線：平成10年6月～平成11年5月31日、週3便運航

平成11年6月1日～平成11年11月30日、毎日運航

平成11年12月1日～平成12年6月30日、平成12年11月1日～平成13年3月31日、週4便運航

平成12年7月1日～平成12年10月30日、毎日運航

平成13年4月1日～平成13年6月1日、週3便

\* 高松線：平成10年6月～平成11年5月31日、週3便運航

## (3) チャーター便利用状況

(上段：利用者数 下段：利用率)

路線(就航先)		H8年度	H9年度	H10年度	H11年度	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	小計
国際	韓国	171	123	226	232	188	-	230	-	-	-	1,170
		63.8%	91.8%	84.3%	86.6%	70.1%	-	85.8%	-	-	-	79.4%
	香港	-	-	-	-	-	-	-	-	228	232	460
										72.2%	73.4%	72.8%
	台北	-	-	-	-	-	-	-	-	-	462	462
											73.1%	73.1%
国内		-	-	-	-	-	-	-	359	-	-	359
									89.3%			89.3%
合計		171	123	226	232	188	0	230	359	228	694	2,451
		63.8%	91.8%	84.3%	86.6%	70.1%	-	85.8%	89.3%	72.2%	73.2%	78.1%

路線(就航先)		H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	合計
国際	韓国 香港	-	-	-	-	-	1,630
							77.4%
	台北	173	407	1,291	-	-	2,333
		54.7%	64.4%	54.5%			65.9%
	高雄	-	-	187	-	-	187
				39.5%			39.5%
	瀋陽	465	-	-	-	-	465
		93.8%					93.8%
	青島	428	-	-	-	-	428
		86.3%					86.3%
	重慶	334	484	-	-	-	818
		89.8%	97.6%				94.2%
	武漢	332	-	-	-	-	332
		89.2%					89.2%
	上海	-	186	292	-	454	932
			75.0%	58.9%		91.5%	75.2%
大連	-	170	342	302	-	814	
		34.3%	69.0%	60.9%		54.7%	
天津	-	391	292	-	-	683	
		78.8%	58.9%			78.8%	
西安	-	215	-	-	-	215	
		86.7%				86.7%	
張家界	-	-	-	708	-	708	
				81.6%		81.6%	
グアム	-	230	227	222	184	863	
		76.7%	75.7%	74.0%	74.2%	75.2%	
ウラジオ ストク	-	-	-	190	-	190	
				63.3%		63.3%	
国内		-	-	-	-	3,177	3,536
						86.4%	86.7%
合計		1,732	2,083	2,631	1,422	3,815	12,504
		84.4%	71.4%	56.8%	72.4%	85.3%	73.9%

## (4) 定期便就航率

年度	H6年度	H7年度	H8年度	H9年度	H10年度	H11年度	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度
就航便数	1,382	2,785	3,319	3,300	2,920	2,748	2,745	2,645	2,107	2,077
欠航便数	112	95	123	179	100	60	95	109	85	122
就航率	92.5%	96.7%	96.4%	94.9%	96.7%	97.9%	96.7%	96.0%	96.1%	94.5%

年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	合計
就航便数	2,059	2,110	2,129	1,772	1,425	1,412	1,759	35,253
欠航便数	133	86	77	84	67	64	48	1,394
就航率	93.9%	96.1%	96.5%	95.5%	95.5%	95.7%	97.3%	96.2%

## (5) 路線別利用状況

## ア 札幌-松本線

運航会社	運航機種	運航期間
㈱日本航空インターナショナル (H18.9.30まで日本航空ジャパン)	MD-87型 (134人乗)	平成6年7月27日～平成19年9月30日
日本エアコミューター㈱	DASH-8-400型 (74人乗)	平成16年4月1日～平成22年5月31日
㈱フジドリームエアラインズ	ERJ170/175型 (76/84人乗)	平成22年6月1日～

年度	期間	利用者数					利用率 (%)	航空貨物 取扱量 (kg)	航空郵便 取扱量 (kg)	欠航便数
		便数	就航率 (%)	札幌→松本 (人)	松本→札幌 (人)	計 (人)				
6	7.27～3.31	230	94.3	13,072	12,562	25,634	83.2	7,083	-	14
7	4.1～3.31	520	95.9	29,624	28,461	58,085	83.4	29,878	-	22
8	4.1～3.31	665	97.5	33,739	32,567	66,306	74.4	25,740	-	17
9	4.1～3.31	696	95.6	34,827	33,047	67,874	72.8	10,156	-	32
10	4.1～3.31	999	96.4	38,342	37,099	75,441	56.4	12,618	-	37
11	4.1～3.31	712	97.3	34,396	32,789	67,185	70.4	17,382	-	20
12	4.1～3.31	830	97.2	33,787	32,862	66,649	59.9	20,063	-	24
13	4.1～3.31	706	96.7	31,957	31,263	63,220	66.8	17,275	-	24
14	4.1～3.31	704	96.4	31,359	30,914	62,273	66.0	20,401	9,812	26
15	4.1～3.31	694	94.8	31,562	30,908	62,470	67.2	14,663	10,938	38
16	4.1～3.31	688	94.2	29,698	29,019	58,717	63.7	14,523	12,485	44
17	4.1～3.31	702	96.2	31,223	30,134	61,357	65.2	13,251	-	28
18	4.1～3.31	703	96.3	29,119	28,323	57,442	61.0	16,064	-	27
19	4.1～3.31	557	96.7	23,197	22,038	45,235	72.1	7,326	-	19
20	4.1～3.31	387	93.0	11,121	10,881	22,002	76.8	882	-	29
21	4.1～3.31	395	94.5	9,946	10,094	20,040	68.6	458	-	23
22	4.1～3.31	660	97.3	18,597	18,278	36,875	71.2	164	-	18

イ 福岡－松本線

運航会社	運航機種	運航期間
㈱日本エアシステム	MD-87型 (134人乗)	平成8年7月26日～平成16年3月31日
日本エアコミューター㈱	DASH-8-400型 (74人乗)	平成16年4月1日～平成22年5月29日
㈱日本航空ジャパン	MD-87型 (134人乗)	平成16年7月16日～平成16年8月31日 (この期間は、JACのDASH-8-400は運休)
㈱フジドリームエアラインズ	ERJ170/175型 (76/84人乗)	平成22年6月1日～

年度	期間	利用者数					利用率 (%)	航空貨物 取扱量 (kg)	航空郵便 取扱量 (kg)	欠航便数
		便数	就航率 (%)	福岡→松本 (人)	松本→福岡 (人)	計 (人)				
6	7.26～3.31	237	93.3	13,930	13,408	27,338	86.1	11,800	-	17
7	4.1～3.31	558	96.2	27,941	25,924	53,865	72.0	9,865	-	22
8	4.1～3.31	654	95.1	25,767	28,096	53,863	61.5	23,323	-	34
9	4.1～3.31	691	94.9	28,170	28,158	56,328	60.8	18,742	-	37
10	4.1～3.31	704	96.4	29,578	26,841	56,419	59.8	11,602	-	26
11	4.1～3.31	718	98.1	29,981	28,370	58,351	60.6	9,691	-	14
12	4.1～3.31	703	96.3	30,582	30,097	60,679	64.4	11,001	-	27
13	4.1～3.31	700	95.9	30,322	29,827	60,149	64.1	9,328	-	30
14	4.1～3.31	701	96.0	30,868	29,612	60,480	64.4	9,295	-	29
15	4.1～3.31	695	94.9	26,711	25,225	51,936	59.9	8,629	-	37
16	4.1～3.31	683	92.7	17,950	17,373	35,323	63.3	5,464	-	47
17	4.1～3.31	701	96.0	18,359	18,203	36,562	70.5	4,757	-	29
18	4.1～3.31	703	96.3	18,009	17,644	35,653	68.5	3,739	-	27
19	4.1～3.31	495	94.8	12,074	12,007	24,081	65.7	2,961	20	27
20	4.1～3.31	304	96.8	7,159	6,937	14,096	62.7	2,427	-	10
21	4.1～3.31	303	97.1	6,939	6,755	13,694	61.1	1,982	-	9
22	4.1～3.31	642	97.3	12,430	12,208	24,638	48.7	175	-	18

ウ 静岡－松本線

運航会社	運航機種	運航期間
㈱フジドリームエアラインズ	ERJ170/175型 (76/84人乗)	平成22年10月31日～平成23年3月26日

年度	期間	利用者数					利用率 (%)	航空貨物 取扱量 (kg)	航空郵便 取扱量 (kg)	欠航便数
		便数	就航率 (%)	静岡→松本 (人)	松本→静岡 (人)	計 (人)				
22	10.31～3.26	290	98.6	5,201	5,634	10,835	47.4	-	-	4

工 大阪－松本線

運航会社	運航機種	運航期間
東亜国内航空(旧：東亜航空)	コンベア240型 (40人乗)	昭和41年8月～昭和43年7月
(株)日本エアシステム (旧：東亜国内航空)	YS-11型 (64人乗)	昭和43年8月～平成5年5月
	MD-87型 (134人乗)	平成6年7月26日～平成15年3月31日
日本エアコミューター(株)	YS-11型 (64人乗)	平成13年4月～平成13年10月 (JASのMD-87も運航)
	DASH-8-400型 (74人乗)	平成15年4月1日～平成22年5月31日
(株)日本航空ジャパン (旧：日本エアシステム)	MD-87型 (134人乗)	平成16年7月16日～平成16年8月31日 (この期間は、JACのDASH-8-400は運休)

年度	期間	利用者数					利用率 (%)	航空貨物 取扱量 (kg)	航空郵便 取扱量 (kg)	欠航便数
		便数	就航率 (%)	大阪→松本 (人)	松本→大阪 (人)	計 (人)				
57	4. 1～ 3. 31	686	94.0	13,294	12,755	26,049	63.3	9,608	-	44
58	4. 1～ 3. 31	704	93.6	12,987	12,678	25,665	60.8	10,390	-	48
59	4. 1～ 3. 31	1,013	95.2	20,683	20,489	41,172	67.9	15,062	-	51
60	4. 1～ 3. 31	1,332	94.6	22,257	21,528	43,785	54.8	22,832	12,295	76
61	4. 1～ 3. 31	1,404	96.2	25,284	24,388	49,672	59.0	22,951	140,178	56
62	4. 1～ 3. 31	1,341	91.6	25,159	24,622	49,781	61.9	33,736	144,239	123
63	4. 1～ 3. 31	1,330	91.1	23,486	22,395	45,881	57.5	26,738	149,493	130
元	4. 1～ 3. 31	1,335	91.4	24,961	24,615	49,576	61.9	26,045	147,267	125
2	4. 1～ 3. 31	1,359	93.1	28,243	27,849	56,092	68.8	34,732	119,049	101
3	4. 1～ 3. 31	1,312	89.6	26,339	25,928	52,267	66.4	23,725	105,675	152
4	4. 1～ 3. 31	1,308	89.6	25,284	25,223	50,507	64.4	17,712	102,618	152
5	4. 1～ 5. 9	134	85.9	2,574	2,624	5,198	64.7	1,957	9,137	22
6	7. 26～ 3. 31	915	91.9	37,639	37,677	75,316	61.4	22,279	36,181	81
7	4. 1～ 3. 31	1,418	96.9	58,312	52,781	111,093	58.5	70,203	68,184	46
8	4. 1～ 3. 31	1,013	97.4	45,544	37,268	82,812	61.0	37,192	77,628	27
9	4. 1～ 3. 31	1,087	95.0	41,268	33,898	75,166	51.6	23,059	53,186	57
10	4. 1～ 3. 31	703	96.3	26,121	27,389	53,510	56.8	31,216	68,303	27
11	4. 1～ 3. 31	718	98.1	29,153	30,207	59,360	61.7	32,007	73,715	14
12	4. 1～ 3. 31	704	96.4	27,770	25,138	52,908	56.1	37,472	77,567	26
13	4. 1～ 3. 31	1,161	95.5	30,187	27,375	57,562	46.2	13,506	83,638	55
14	4. 1～ 3. 31	700	95.9	27,569	24,763	52,332	55.8	17,147	66,054	30
15	4. 1～ 3. 31	685	93.6	14,809	10,377	25,186	49.7	7,752	20,690	47
16	4. 1～ 3. 31	686	93.1	13,484	11,226	24,710	43.9	7,236	12,154	44
17	4. 1～ 3. 31	701	96.0	13,854	12,251	26,105	50.3	8,847	5,700	29
18	4. 1～ 3. 31	707	96.8	13,938	12,478	26,416	50.5	7,314	5,306	23
19	4. 1～ 3. 31	698	95.4	14,125	12,070	26,195	50.7	5,355	4,773	34
20	4. 1～ 3. 31	702	96.2	12,988	11,767	24,755	47.7	3,613	3,974	28
21	4. 1～ 3. 31	699	95.8	11,549	10,871	22,420	43.3	3,499	2,974	31
22	4. 1～ 5. 31	114	93.4	2,073	1,971	4,044	47.9	528	-	4



オ 広島－松本線【廃止】

運航会社	運航機種	運航期間
㈱日本エアシステム	MD-87型 (134人乗)	平成7年4月25日～平成10年3月31日

年度	期間	利用者数				利用率 (%)	航空貨物取扱量 (kg)	航空郵便取扱量 (kg)	欠航便数	
		便数	就航率 (%)	広島→松本 (人)	松本→広島 (人)					計 (人)
7	4. 25～ 3. 31	289	98.3	13,188	12,845	26,033	67.2	1,242	-	5
8	4. 1～ 3. 31	366	94.3	13,903	12,283	26,186	53.4	1,866	-	22
9	4. 1～ 3. 31	327	95.0	13,118	11,467	24,585	56.1	858	-	17

カ 仙台－松本線【廃止】

運航会社	運航機種	運航期間
㈱日本エアシステム	MD-87型 (134人乗)	平成8年7月20日～平成9年10月31日

年度	期間	利用者数				利用率 (%)	航空貨物取扱量 (kg)	航空郵便取扱量 (kg)	欠航便数	
		便数	就航率 (%)	仙台→松本 (人)	松本→仙台 (人)					計 (人)
8	7. 20～ 3. 31	209	95.9	6,654	6,068	12,722	45.4	881	-	9
9	4. 1～10. 31	181	98.3	6,503	6,416	12,919	53.3	654	-	3

キ 関西空港－松本線【廃止】

運航会社	運航機種	運航期間
㈱日本エアシステム	MD-87型 (134人乗)	平成8年9月1日～平成10年3月31日

年度	期間	利用者数				利用率 (%)	航空貨物取扱量 (kg)	航空郵便取扱量 (kg)	欠航便数	
		便数	就航率 (%)	関西→松本 (人)	松本→関西 (人)					計 (人)
8	9. 1～ 3. 31	410	96.7	12,495	10,103	22,598	41.1	2,435	-	14
9	4. 1～ 3. 31	317	93.4	6,635	6,942	13,577	32.0	5,502	16,441	22

ク 松山－松本線【廃止】

運航会社	運航機種	運航期間
日本エアコミューター㈱	SAAB340B型 (36人乗)	平成10年6月1日～平成13年6月30日

年度	期間	利用者数				利用率 (%)	航空貨物取扱量 (kg)	航空郵便取扱量 (kg)	欠航便数	
		便数	就航率 (%)	松山→松本 (人)	松本→松山 (人)					計 (人)
10	6. 1～ 3. 31	256	97.7	2,424	2,763	5,187	56.3	210	-	6
11	4. 1～ 3. 31	547	98.0	4,255	4,256	8,511	43.2	1,011	-	11
12	4. 1～ 3. 31	506	96.6	3,660	3,327	6,987	38.4	1,128	-	18
13	4. 1～ 6. 30	78	100.0	440	448	888	31.6	71	-	0

ケ 高松－松本線【廃止】

運航会社	運航機種	運航期間
日本エアコミューター㈱	SAAB340B型 (36人乗)	平成10年6月2日～平成11年5月31日

年度	期間	利用者数				利用率 (%)	航空貨物取扱量 (kg)	航空郵便取扱量 (kg)	欠航便数	
		便数	就航率 (%)	高松→松本 (人)	松本→高松 (人)					計 (人)
10	6. 2～ 3. 31	256	98.4	2,728	2,324	5,052	54.8	382	-	4
11	4. 1～ 5. 31	51	98.1	410	396	806	43.9	120	-	1

コ 国際旅客チャーター便

運航会社	運航機種
㈱日本エアシステム (略号: JAS)	MD-87型 (134人乗)
ホンコンドラゴンエアラインズリミテッド (香港ドラゴン航空 略号: KA)	A320-200型 (158人乗)
チャイナエアライン (中華航空 略号: CI)	B737-800型 (158人乗)
中国南方航空公司 (略号: CZ)	A319型 (124人乗)
中国東方航空公司 (略号: MU)	A319型 (124人乗)
中国国際航空公司 (略号: CA)	B737-700型 (124人乗)
コンチネンタル・マイクロネシア航空 (略号: CS)	B737-800型 (150人乗)
ウラジオストク航空 (略号: XF)	A320型 (150人乗)
コンチネンタル航空 (略号: CO)	B737-800型 (150人乗)

年度	運航会社 (機種)	期間	利用者数				利用率 (%)	欠航便数	
			便数	就航率 (%)	運航区間 (人)				計 (人)
8	JAS (MD-87)	11. 15~11. 17	2	100	松 本→釜 山 85	釜 山→松 本 86	171	63. 8	0
9	JAS (MD-87)	12. 6~12. 8	1	50	松 本→ソウル 123	ソウル→松 本 0	123	91. 8	1
10	JAS (MD-87)	10. 30~11. 1	2	100	松 本→ソウル 113	ソウル→松 本 113	226	84. 3	0
11	JAS (MD-87)	10. 30~11. 1	2	100	松 本→ソウル 116	ソウル→松 本 116	232	86. 6	0
12	JAS (MD-87)	10. 27~10. 29	2	100	松 本→ソウル 94	ソウル→松 本 94	188	70. 1	0
14	JAS (MD-87)	6. 1~ 6. 3	2	100	松 本→釜 山 114	釜 山→松 本 116	230	85. 8	0
16	KA (A320-200)	3. 26	2	100	香 港→松 本 123	松 本→香 港 105	228	72. 2	0
17	KA (A320-200)	6. 11	2	100	香 港→松 本 124	松 本→香 港 108	232	73. 4	0
	CI (B737-800)	11. 2 11. 6	4	100	台 北→松 本 234	松 本→台 北 228	462	73. 1	0
18	CZ (A319)	5. 1 5. 5	4	100	瀋 陽→松 本 233	松 本→瀋 陽 232	465	93. 8	0
	MU (A319)	10. 1 10. 5	4	100	青 島→松 本 214	松 本→青 島 214	428	86. 3	0
	CA (B737-700)	10. 10、10. 14 10. 18、10. 22	6	100	武 漢→松 本 332	松 本→重 慶 334	666	89. 5	0
	CI (B737-800)	10. 12 10. 16	2	100	台 北→松 本 87	松 本→台 北 86	173	54. 7	0
19	CZ (A319)	5. 1、5. 3 5. 5、5. 7	4	66. 7	大 連→松 本 118	松 本→大 連 52	170	34. 3	2
	CZ (A319)	5. 3 5. 7	2	100	天 津→松 本 88	松 本→天 津 88	176	71. 0	0
	MU (A319)	5. 2 5. 6	2	50	上 海→松 本 78	松 本→上 海 108	186	75. 0	2
	CI (B737-800)	6. 1 6. 4	4	100	台 北→松 本 201	松 本→台 北 206	407	64. 4	0
	CA (B737-700)	10. 8、10. 12 10. 16	4	100	重 慶→松 本 242	松 本→重 慶 242	484	97. 6	0
	CA (B737-700)	10. 16、10. 20 10. 24	4	100	西 安→松 本 215	松 本→天 津 215	430	86. 7	0
	CS (B737-800)	2. 14 2. 17	2	100	グアム→松 本 115	松 本→グアム 115	230	76. 7	0

年度	運航会社 (機種)	期間	利用者数				利用率 (%)	欠航便数	
			便数	就航率 (%)	運航区間 (人)				計 (人)
20	CA (B737-700)	5. 1 5. 6	4	100	天津→松本 146	松本→天津 146	292	58.9	0
	MU (A319)	5. 3 5. 7	4	100	上海→松本 146	松本→上海 146	292	58.9	0
	CZ (A319)	5. 24 5. 28	4	100	大連→松本 171	松本→大連 171	342	69.0	0
	CI (B737-800)	10. 11. 10. 15. 10. 31 11. 4. 11. 8. 11. 12 11. 16	10	100	台北→松本 490	松本→台北 492	982	62.2	0
	CI (B737-800)	10. 15. 10. 19 10. 23. 10. 27 10. 31	8	100	台北→松本 248	松本→高雄 248	496	39.2	0
	CS (B737-800)	2. 14 2. 17	2	100	グアム→松本 113	松本→グアム 114	227	75.7	0
21	CZ (A319)	5. 23 5. 27	4	100	大連→松本 150	松本→大連 152	302	60.9	0
	XF (A320)	9. 19 9. 22	2	100	ウラジオストク→松本 95	松本→ウラジオストク 95	190	63.3	0
	CA (B737-700)	11. 1. 11. 5 11. 9. 11. 13	7	87.5	張家界→松本 309	松本→張家界 399	708	81.6	1
	CS (B737-800)	2. 14 2. 17	2	100	グアム→松本 111	松本→グアム 111	222	74.0	0
22	MU (A319)	5. 1 5. 5	4	100	上海→松本 227	松本→上海 227	454	91.5	0
	CO (B737-800)	2. 16 2. 19	2	100	松本→グアム 92	グアム→松本 92	184	61.3	0

※18. 10. 10 (武漢→松本)、10. 22 (松本→重慶)、10. 12 (松本→台北)、10. 16 (台北→松本)、19. 10. 8 (北京→松本)、10. 24 (松本→北京)、20. 2. 14 (富山→松本)、2. 17 (松本→グアム)、20. 10. 11 (台北→松本)、11. 16 (松本→台北)、21. 2. 14 (富山→松本)、2. 17 (松本→グアム)、21. 9. 19 (ウラジオストク→松本)、9. 22 (松本→ウラジオストク)、11. 1 (北京→松本)、22. 2. 14 (富山→松本)、2. 17 (松本→グアム)はフェリー便のため、上表には含まれていない。

サ 国内旅客チャーター便

運航会社	運航機種
㈱日本エアシステム (略号: JAS)	MD-87型 (134人乗)
㈱フジドリームエアラインズ (略号: FDA)	ERJ170/175型 (76人/84人乗)

年度	運航会社 (機種)	期間	利用者数				利用率 (%)	欠航便数
			便数	就航率 (%)	運航区間 (人)	計 (人)		
15	JAS (MD-87)	5. 19	1	100	— 大 阪→松 本 — 125	125	93.3	0
	JAS (MD-87)	11. 7~11. 9	2	100	松 本→出 雲 出 雲→松 本 117 117	234	87.8	0
22	FDA (ERJ170/175)	5. 6, 5. 8, 5. 10 5. 12, 5. 14, 5. 27 5. 29	14	100	松 本→静 岡 静 岡→松 本 417 442	859	79.5	0
	FDA (ERJ170/175)	11. 21, 12. 5, 12. 8 12. 10, 3. 1, 3. 3 3. 4, 3. 6	9	100	松 本→種 子 島 種 子 島→松 本 413 199	612	86.4	0
	FDA (ERJ170/175)	11. 22, 11. 24, 11. 26 11. 28, 12. 4, 12. 6 1. 21, 1. 23, 1. 25 1. 27, 1. 29	14	100	松 本→奄 美 奄 美→松 本 494 512	1,006	89.8	0
	FDA (ERJ170)	1. 28 1. 30	2	100	松 本→那 覇 那 覇→松 本 69 71	140	92.1	0
	FDA (ERJ170)	2. 22, 2. 24 2. 26	4	100	松 本→福 江 福 江→松 本 139 139	278	91.4	0
	FDA (ERJ170)	2. 24, 2. 28	2	100	松 本→長 崎 長 崎→松 本 71 71	142	93.4	0
	FDA (ERJ170/175)	3. 7, 3. 9	2	100	松 本→出 雲 出 雲→松 本 69 71	140	87.5	0

(5) 空港使用料収入状況

年度	収入額	備考	年度	収入額	備考
昭和57	7,689,510		9	169,017,484	
58	7,445,500		10	125,708,923	
59	8,569,560		11	76,570,364	
60	10,046,060		12	78,882,707	着陸料の額の特例 (H11.4.1施行)
61	10,831,260		13	77,912,813	
62	11,087,810		14	74,134,720	
63	10,932,700		15	50,060,236	
平成元	11,732,440		16	37,705,869	
2	11,647,321		17	33,110,311	着陸料の額の特例 (H17.4.1施行)
3	11,470,169		18	33,636,114	
4	12,328,878		19	21,675,918	H19.10以降札幌便、福岡便 DASH8-400型(74人乗)による隔日運航
5	1,414,036	H5.5.10以降定期便運航休止	20	9,792,058	
6	70,730,683	H6.7.26定期便運航再開	21	10,221,137	
7	140,674,026		22	4,019,916	H22.6.1 FDA就航 (着陸料の額の特例適用)
8	168,733,276				

※収入額は、着陸料及び停留料の合計額

(6) 着陸料の減免に関する根拠条例

◆長野県松本空港条例（抜粋）（昭和39年長野県条例第99号）

（着陸料又は停留料の納付）

第15条 航空機の着陸又は停留のための空港の施設を使用する者（以下「施設を使用する者」という。）は、次の各号に掲げる区分に従い、当該各号に定めるときに、着陸料又は停留料（停留料にあつては、航空機が6時間以上空港内に停留する場合に限る。以下「着陸料等」という。）を納付しなければならない。

(1) 着陸料 着陸直後

(2) 停留料 停留終了時

2 前項の規定にかかわらず、定期又は継続的に施設を使用する者の着陸料等の納付方法は、規則で定める。

（着陸料等の額）

第16条 着陸料等の額は、別表のとおりとする。（⇒別表は次ページ）

附 則

（着陸料の額の特例）

2 当分の間、第1号から第4号までに掲げる航空機（他人の需要に応じ、有償で旅客又は貨物の運送を行うものに限る。以下同じ。）の着陸料の額に係る別表の1の規定の適用については、同1の(1)中「合計額」とあるのは「合計額に零を乗じて得た額」と、同1の(2)中「定める額」とあるのは「定める額に零を乗じて得た額」とし、第5号に掲げる航空機の着陸料の額に係る別表の1の規定の適用については、同1の(1)中「合計額」とあるのは「合計額に3分の2を乗じて得た額」と、同1の(2)中「定める額」とあるのは「定める額に3分の2を乗じて得た額」とする。

(1) 空港と本邦の他の地点との間に定められた路線（平成17年3月31日において定められているものに限る。）において航行する航空機で、運航計画（航空法第107条の2第1項の運航計画をいう。次号及び第3号において同じ。）に基づき空港に着陸する回数が路線ごとに1週間当たり7回を超える分に係るもの

⇒ **既設定期便の複便化分（増便分）** 【平成17年3月改正・4月1日施行】

(2) 空港と本邦の他の地点との間に定められた路線（平成17年4月1日以後に定められたものに限る。）において航行する航空機で、運航計画に基づき空港に着陸するもの

⇒ **新規就航定期便（H17.4.1以降就航便）** 【平成17年3月改正・4月1日施行】

(3) 空港と本邦の他の地点との間において航行する航空機で、運航計画に基づかないで空港に着陸するもの

⇒ **国内チャーター便** 【平成19年7月改正・8月1日施行】

(4) 空港と本邦外の地点との間において航行する航空機

⇒ **国際チャーター便** 【平成17年3月改正・4月1日施行】

(5) 前各号に掲げる航空機以外の航空機

⇒ **H17.3.31以前から運航している定期便** 【平成11年3月改正・4月1日施行】

着陸料全額免除

1/3減免

(着陸料の額)

長野県松本空港条例

(別表)(第16条関係)

1 着陸料

(1) ターボジェット発動機を装備する航空機

着陸1回ごとに、国内航空に従事する航空機(以下「国内航空機」という。)にあつては次のア及びイの額の合計額に1.05を乗じて得た額、国際航空に従事する航空機(以下「国際航空機」という。)にあつては次のア及びイの額の合計額

ア 次に掲げる航空機の区分に応じ、当該区分に定める額

(ア) 最大離陸重量25トン以下の航空機 最大離陸重量のトン数に1,100円を乗じて得た額

(イ) 最大離陸重量25トンを超える航空機 27,500円に25トンを超える1トンごとに1,500円を加算した額

イ 国際民間航空条約の附属書16に定めるところにより測定された離陸測定点及び進入測定点における航空機の騒音値(当該騒音値のない航空機にあつては、当該航空機について、その製造国の政府機関が公表しているこれに準ずる騒音値)を相加平均して得た値(1EPNデシベル未満の端数があるときは、その端数を1EPNデシベルとして計算する。)から83を減じた値に3,400円を乗じて得た額

(2) ターボジェット発動機を装備する航空機以外の航空機

着陸1回ごとに、次に掲げる航空機の区分に応じ、国内航空機にあつては当該区分に定める額に1.05を乗じて得た額、国際航空機にあつては当該区分に定める額

ア 最大離陸重量6トン以下の航空機 1,000円

イ 最大離陸重量6トンを超える航空機 700円に6トンを超える1トンごとに590円を加算した額

#### 4 冬期間の降雪量及び気温の状況等

項目		年月				合計
		平成22年12月	平成23年1月	平成23年2月	平成23年3月	
降雪日数 (日)		4	7	9	5	25
降雪量内訳 (日)	0cm	2	2	1	2	7
	1~5cm	2	5	2	2	11
	6~10cm	0	0	1	0	1
	11~15cm	0	0	1	0	1
	16~20cm	0	0	3	1	4
	21cm~	0	0	1	0	1
降雪量月合計 (cm)		5	7	46	18	76
最高気温月平均 (℃)		8.4	3.3	7.1	8.4	
最低気温月平均 (℃)		-2.7	-8.7	-5.6	-4.6	
月平均気温 (℃)		2.8	-2.6	0.7	1.8	
除雪回数 (回)		4 [2]	6 [5]	10 [7]	5 [4]	25 [18]

注1) 気象データは長野地方気象台のデータを使用している。

注2) 除雪回数欄下段の[ ]内は平成22年度の回数



## 5 信州の翼FDA応援プログラム（平成23年度）

### 運航経費の負担軽減

【平成23年度当初予算額（ ）は前年度当初】

#### ■ 着陸料の全額免除

- ・松本空港条例に基づき、新規就航定期便に係る着陸料を全額免除  
〔参考〕 減免前の着陸料（1回当たり） ・ERJ170：60,900円 ・ERJ175：72,765円

軽減額 約 43,000千円  
（札幌線、福岡線の2路線が  
1年間継続運航した場合）

#### ■ 保安検査業務に対する補助

- ・ハイジャック等防止対策事業補助金  
検査機器による保安検査業務に従事する職員の配置等に対する助成（補助率 1/2）

17,058千円（17,254千円）

### 利用促進策の充実強化

#### ■ 信州まつもと空港利用促進協議会事業の充実

（信州まつもと空港利用促進協議会負担金）

協議会事業費予定額  
26,350千円（26,300千円）  
うち県負担金  
18,900千円（18,900千円）

協議会事業費予定額（県負担金）

更なる認知度アップ・運航情報の周知	県内での広報	◆ F D A 運航情報の広報宣伝 ・運航ポスター・チラシによるPR ・県内テレビ局とのタイアップによるPR ・写真コンクールの実施、ポケット時刻表の配付等	2,970千円〔 2,130千円〕
		◆ 記念イベントの開催 ① 新・FDA就航1周年記念、搭乗者10万人達成記念セレモニーの開催	360千円〔 260千円〕
		◆ 九州モニターツアー実施によるPR ① 新・九州新幹線全線開業に合わせた九州地区へのモニターツアー ② 新・テレビ番組によるツアー内容のPR	820千円〔 590千円〕
利用促進策の周知	県外での広報	◆ 就航先での広報宣伝 ① 新・テレビスポットCMの放送（民放2局）【福岡】 ② 新・定期便の認知度調査【福岡】 ③ 新・フリーペーパー・タウン誌を活用したPR【福岡】	4,400千円〔 3,170千円〕
		◆ 県外観光客向けのPR ① 新・FDA機内誌を活用した信州観光PRによる誘客	2,100千円〔 1,470千円〕
		◆ 利用促進キャンペーンの充実 ・ワンフライト、お得意様感謝キャンペーン等の継続 ・松本山雅FC応援キャンペーンの継続 ① 新・長野パルセイロ応援キャンペーンの新設 ② 新・bjリーグ長野チーム応援キャンペーンの新設	4,000千円〔 2,870千円〕
利用者への直接支援	冬期間集中キャンペーンの継続	・利用者が減少する冬期間限定の利用促進キャンペーン	1,000千円〔 720千円〕
		◆ 旅行商品パンフレット等印刷費助成 ・商品造成に向けて、パンフ・チラシ等の作成費を支援	2,800千円〔 2,010千円〕
		◆ 旅行商品企画販売奨励金 ・旅行会社に対し、搭乗実績に応じて奨励金を交付	2,400千円〔 1,720千円〕
旅行者への誘致促進	チャーター便	◆ チャーター便企画旅行会社への支援 ・国際・国内チャーター便運航経費に対する助成 ① 新・国際チャーター便広告宣伝経費に対する助成	1,900千円〔 1,370千円〕
		◆ マイカー利用者への支援、地元促進協への支援等	3,600千円〔 2,590千円〕
計			26,350千円〔 18,900千円〕

### 関係機関との連携強化

#### ■ 「FDA運航支援会議」の開催

- ・安定的な運航に向けて、FDA、県、地元市、経済団体による意見交換

— ( — )

#### ■ 「FDA就航先自治体連絡会議」の開催

- ・利用促進及び航空行政の課題解決に向けて、FDA就航先自治体が連携（FDA、北海道、石川県、長野県、静岡県、愛知県、福岡県、熊本県、鹿児島県で構成）

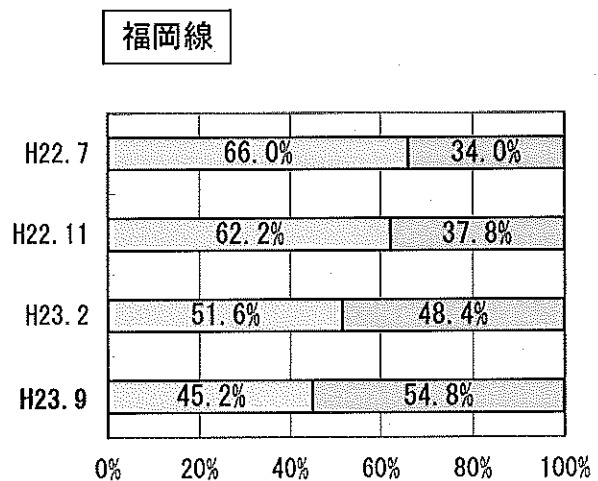
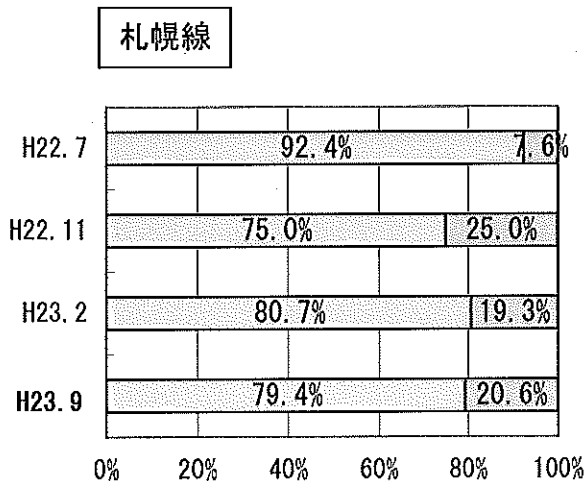
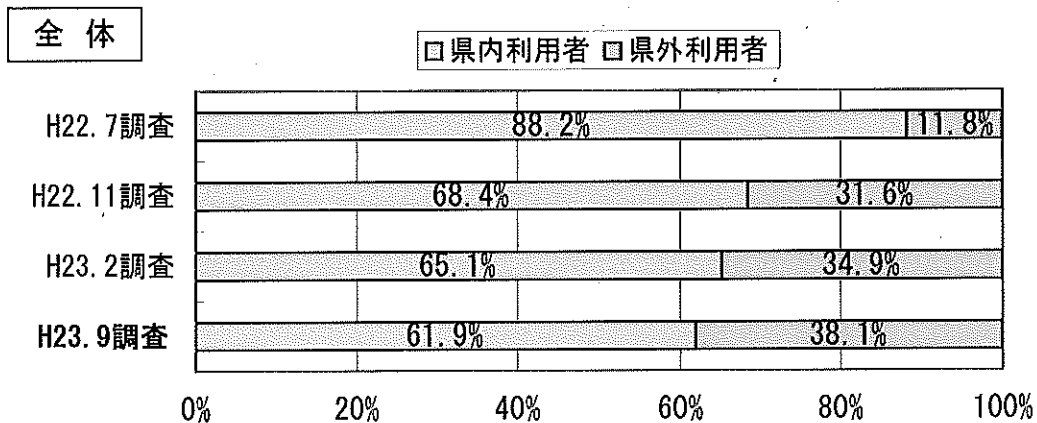
— ( — )

## 6 「信州まつもと空港」の利用促進に関するアンケート結果

- 1 実施期間  
平成23年9月5日(月)～18日(日)
- 2 調査方法  
「信州まつもと空港」搭乗待合室で配布し同室内で回収する方式
- 3 調査対象  
「信州まつもと空港」出発便の搭乗者
- 4 有効回収票数  
札幌線：380票 福岡線：391票 合計：771票

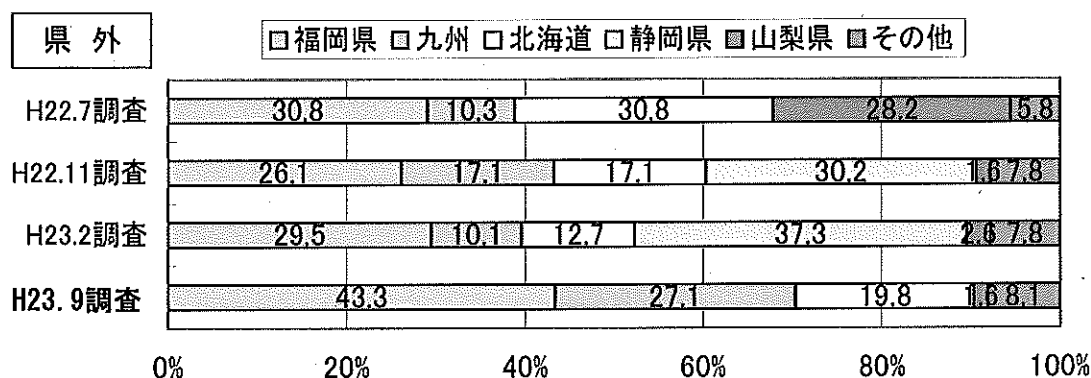
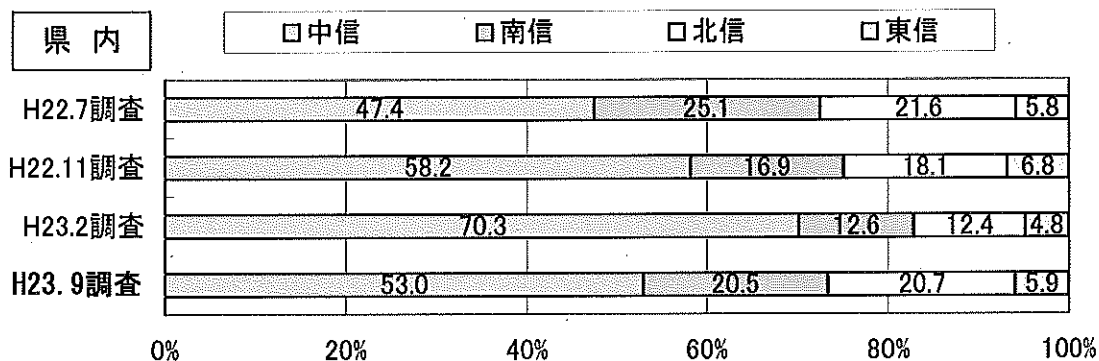
### 【県内・県外利用者の状況】（過去調査分は参考として掲載）

今回の調査では、利用者のうち約6割が県内利用者となっている。  
路線別では、札幌線は県内利用者が79.4%であり、前回とほぼ同様の割合であるのに対し、福岡線は県外利用者が過半の54.8%となり、前年度から県外利用者の割合が増加し続けている。



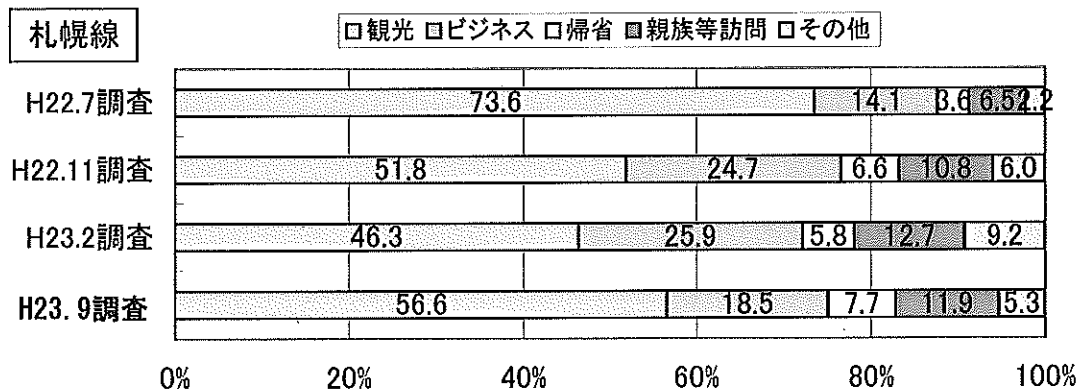
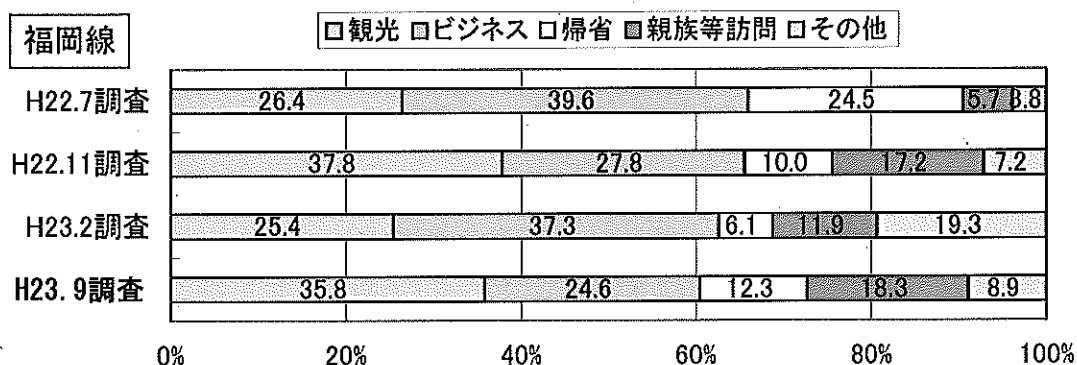
**【利用者の居住地】**（過去調査分は参考として掲載）

県内からの利用者は、中信地域に居住している方が5割強を占め、続いて、南信・北信地域からの利用者がそれぞれ約2割となっている。  
また、県外からの利用者は、福岡県と九州地域からの利用者が約7割を占めている。

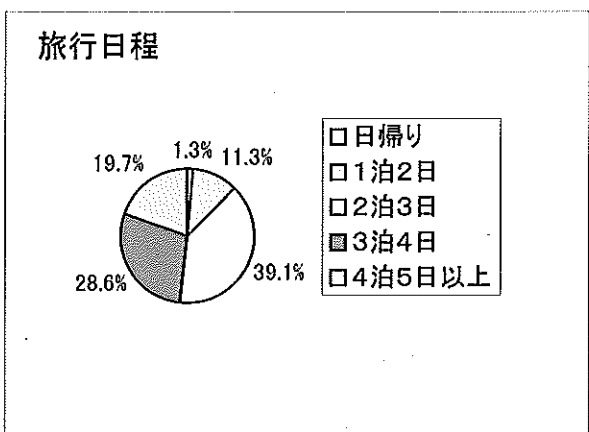
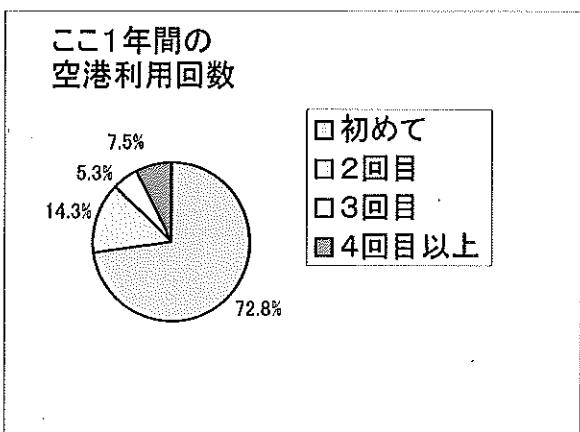
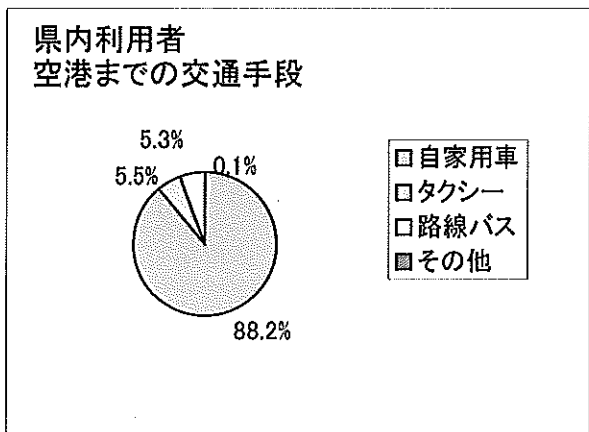
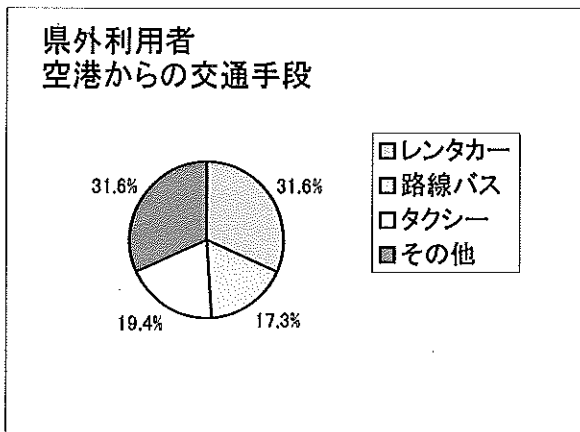
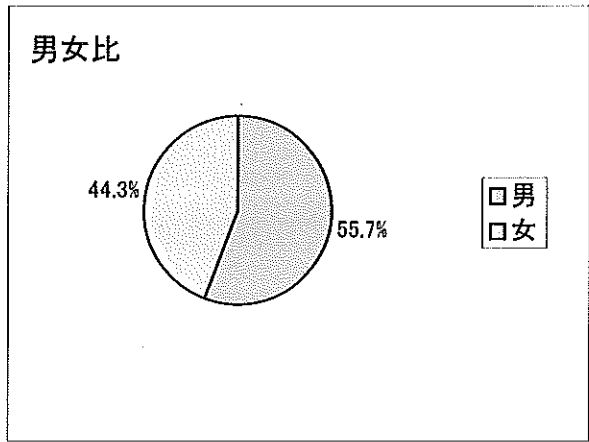
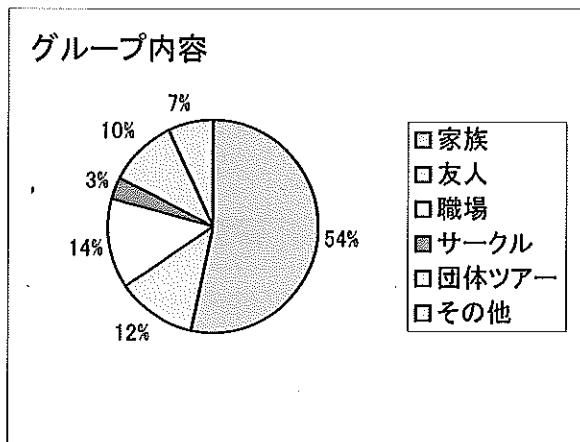
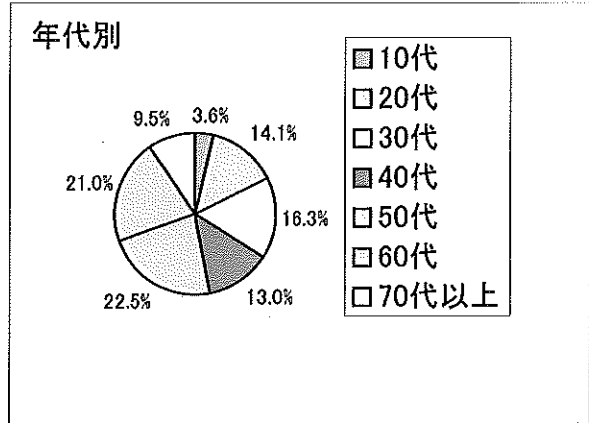
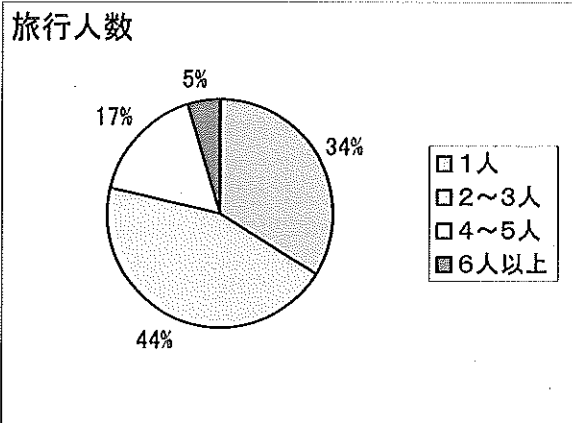


**【旅行目的】**（過去調査分は参考として掲載）

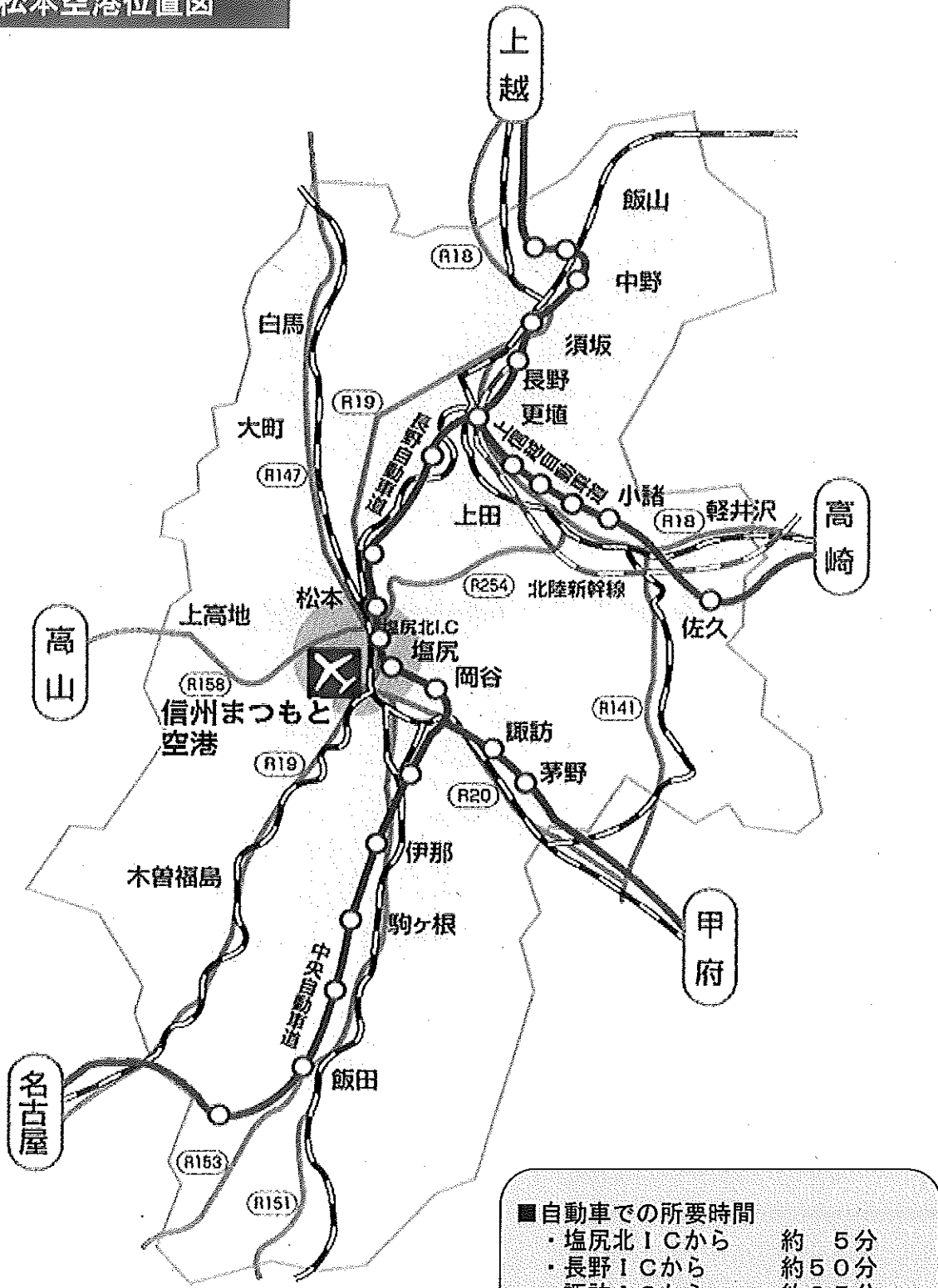
前回調査との比較では、福岡線、札幌線ともに「観光」目的での利用の割合が増え、「ビジネス」目的での利用の割合が減っており、その結果、旅行目的としては、両路線ともに「観光」が一番多く、次いで「ビジネス」の順となっている。



【参 考】 (全て平成23年9月調査結果)



# 7 松本空港位置図



■自動車での所要時間	
・塩尻北ICから	約 5分
・長野ICから	約50分
・諏訪ICから	約25分
・飯田ICから	約70分
・甲府昭和ICから	約60分
■松本駅までの所要時間	
・路線バス	約35分
・タクシー	約25分